

# 笑雲

しょう

うん

第48号  
発行

平成22年10月10日

## 祥雲館

社会福祉法人 桃林会

〒563-0101

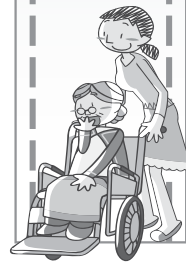
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1

TEL: 072-733-2301

FAX: 072-733-2303

番号をお間違いないよう  
ご注意ください

### 防災と地域福祉



#### 地域の協力が必要な 高齢者施設と施設の地域貢献

祥雲館には災害弱者といわれる方々が多く生活しています。その方々の生命・財産等を24時間、365日、災害から守っていくことは、私たちの大切な使命です。いざという時のために、定期的に消防避難訓練を実施して安全面に配慮していますが、こういった防災への取り組みは、祥雲館だけでは限界があります。特に、平成20年に開設した吉川新館施設は、小規模事業所ということもあり、もし夜間に火災が発生すれば、消防車到着までの間、地域の方の協力がなければ、危機的状況に陥り、近隣の方の協力をいただくことで、本当の防災が成り立つものと考

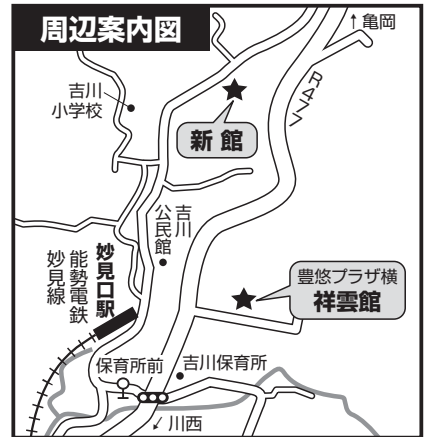
えます。

また、祥雲館が地域に対して貢献できることには、地域と合同での消防避難訓練の実施や祥雲館での救命救急講習会に地域の方にも参加していただくといった防災活動への協力があります。また、大規模災害が発生した場合、避難所での生活が困難な地域の高齢者にデイルームやロビーを開放し介護支援を提供することによって、地域の方の安心・安全を支えることができな

#### 被災を契機とした 町づくり

しかし、大規模災害が発生した場合、最も頼りにするであろう行政機関自体が機能麻痺に陥っていることが想定されます。そうなり

#### 周辺案内図



ますと、行政の支援を待つだけではなく、自らの手で『自治』を回復しなければなりません。被災を契機とした町づくりの視点です。言葉にするとは大袈裟かもしれませんが、身近な者同士が支えあう支援と協力です。

被災時の介護を伴うライフレインの確保や復興時の協力体制など、いわゆる『災害福祉』について、地域と祥雲館が一体となって検討する必要があります。

しかし、こういった『災害福祉』の方策は半年や1年という短い期間で容易に策定できるものではありません。『災害福祉』に対するアイデアや取り組みについて、忌憚なく意見交換できる場を設け、地域住民の方々と祥雲館が顔を突き合わせ、時間をかけて築き上げていきたいと思えます。

#### 地域と祥雲館の 関係構築のために

また、被災時の協力体制を構築するには、日常からの近隣の方と祥雲館との関

係作りが重要です。祥雲館としましては、介護施設としてだけではなく、地域の方が訪問し易い場所となる工夫も必要であると考えています。

祥雲館Cafeを窓口として、地域の方が自由に出入りし、お茶や会話を楽しむ場所として機能し、地域の方が自然と入所者や職員の顔を覚えて下さり、困ったときに手助けしあえるようになり、地域密着型を目指す施設だからこそ、できる取り組みもあると考えています。

なお、災害福祉に関するメールでの意見参加は、[r.tsuchi@syowunkan.jp](mailto:r.tsuchi@syowunkan.jp)

へ担当：井口 仁までご連絡なく送信して下さい。一つでも多くのご意見をお待ちしております。よろしくお願

事業統括 井口 仁

### 敬老のお祝い

9月1日に敬老のお祝いで池田町長が来館されました。豊能町、最高齢(満105歳)の橋本竹野さんに記念品が授与されました。



### 祥雲館 Cafe 第4回 高齢者福祉を一緒に考えませんか?

祥雲館Cafeも今回で4回目を迎えます。毎回たくさんの方々に参加していただき、よりよい地域福祉のあり方や豊能町の高齢者が幸せに暮らせる町づくりに向けて、意見交換を行っています。

第3回では祥雲館の介護職員による実践報告を聞いていただき、その後のCafeタイムでは活発な意見交換ができ有意義な時間を過ごす事ができました。今回も実践報告会と介護教室を同時開催します。

福祉や地域の活性化に興味のある方の参加をお待ちしています。

【日時】平成22年10月23日(土) 10時~12時  
【場所】祥雲館新館 デイルーム  
【会費】200円(懇話会喫茶代)  
【内容】①実践報告会/「地域からの事例報告」報告者:春名 芳子さん  
「防災と地域福祉」報告者:井口 仁さん  
②介護教室/「主体性を引き出す介護方法」講師:西村 禎男さん  
※分科会形式のため、①か②のいずれかを選んで下さい。  
お申込みは、祥雲館 TEL: 072-733-2301まで



# 第2期グループホーム建設に向けて

## グループホームの 増築工事説明会

9月10日(金)に、第2期認知症高齢者専用グループホーム建設に向けて、ご家族の方々を対象に、また、18日(土)に地元吉川地区の在住の方々を対象に、説明会を開催致しました。お忙しい中、多数の方々の参加をいただきました。

施設長より、今後の予定、工事の工程などを説明致しました。現在、入居されている方々には工事で、何かとご迷惑をおかけすることを、大変申し訳なく思います。何卒、ご理解と、ご協力をお願い致します。

## グループホームの日常生活

現在、9名の方が入居されています。それぞれ方々



が居場所や役割を持たれ、共同生活を送っておられます。認知症高齢者の自立した生活を送る上での難しさは、私たち健常者が普段の生活で、何気なく認知していることを、認知できないことにあります。例えば、健常者は、目の前にある鉛筆を自分のものか他人のものかを常に、無意識の内に自覚して行動します。また、鉛筆は、何をするものなのかも、考えることなく理解しています。しかし、認知症は、その力を奪ってしまいます。つまり、私たちは、人と環境との間で、多くの無意識の理解を前提に暮ら

していますが、この大前提が崩れることが認知症を患うことです。自分に置き換えて考えれば、本当に厳しい世界だと想像できます。認知症によって人と環境との間で、遠ざかれた実感を手繰り寄せる場が必要です。グループホームでは、食事を皆で調理することがあります。メニューは決まっているのですが、材料だけ給食室からもらって、皆さんと話をしながら、急遽メニューを変更することもあります。味付けも、味見をしながら、皆さんと一緒に調理します。単純に調理を楽しむだけでなく、調理の中にある人と材料をつなぎ、生活を実感できる場が、認知症高齢者へのケアに大切なものだと考えます。

入浴も特に時間は決めておらず、皆さんが入りたい時に入っていたり、入浴に努めていきます。時には、地域のボランティアの方にも協力していただ

き、書道教室に参加したり、買物にも出かけたりします。ホームの入居者の方々の生活のペースに合わせて、主体性に沿うケアこそが、生活への実感を高めることができると思います。時間がゆったりと流れ、皆さんが落ち着ける環境をスタッフで作っていくことで、認知症の方々も、私たち健常者と変わらない生活をしていただくことが可能になると考えます。

## 祥雲館アーカイブ

祥雲館で最近の出来事をご紹介します。  
当館ホームページのInformation欄からの抜粋です。

- ◆2010.9.11(土)
  - グループホーム外出レクでダリア園に行きました。
- ◆2010.9.10(金)
  - グループホームにて利用者様の誕生日会を開きました。
- ◆2010.9.1(水)
  - 豊能町長が、本館特養入所の豊能町最高齢者へ長寿のお祝いに来館されました。
- ◆2010.8.22(日)
  - 特養2Fたんぼぼにて、家族会を開催しました。
- ◆2010.8.15(日)
  - 特養2Fたんぼぼにて、定期家族会を開催しました。
- ◆2010.8.14(土)
  - 吉川盆踊りに参加しました。ご利用者様も一緒に盆踊りを楽しみました。
- ◆2010.8.10(火)
  - グループホームにて、前の広場で花火をしました。
- ◆2010.8.3(火)~
  - デイサービスセンターあじさいにて、外出レクでお買い物に行きました。
- ◆2010.8.1(日)
  - 特養2Fうぐいすにて、定期家族会を開催しました。
- ◆2010.7.11(日)
  - 『笑雲』第47号を発行しました。
- ◆2010.7.1(水)
  - 祥雲館cafeの詳細が決まりました。皆様のご参加お待ちしております。
- ◆2010.6.20(日)
  - 特養2Fたんぼぼにて、定期家族会を開催しました。
- ◆2010.6.13(日)
  - グループホームにて利用者様の誕生日会を開きました。

祥雲館のホームページ

<http://www2.gol.com/users/syownkan/>

次回の発行は平成23年1月9日(日)です

## 吉川 盆踊り祭

8月14日(土)、吉川の夏祭りに利用者の方々とも、一緒に参加しました。利用者の皆様も、盆踊りの曲を聞くと、自然と体が動くのか、踊りの輪の中に入られ、地域の方々と一緒に踊られていました。中には、曲に合わせて手拍子をされる方もいらっしゃいました。まさに、昔取った杵柄ですね。盆踊りは育った地域に関係なく皆が楽しめるものだと改めて感じました。



花火が打ち上がった時には、一斉に拍手が湧き起こり、とてもいい夏の思い出になったことと思います。時々、この夏祭りの話をしますが、利用者の方の中には今でもその時の様子をお話していただくこともあります。それほど、皆様にとって印象深いものになっているのだなと思います。暖かく迎えて下さった地域の皆様、ありがとうございました。